



**Data** 2023-92

監督・原作・脚本：宮崎駿

出演：山時聡真／菅田将暉／柴咲コウ／あいみょん／木村佳乃／竹下景子／風吹ジュン／阿川佐和子／大竹しのぶ／滝沢カレン／國村隼／小林薫／火野正平／木村拓哉

## 👁️👁️ みどころ

日本アニメ界の巨匠、宮崎駿は『風立ちぬ』（13年）を最後に引退宣言をしていたが、なぜか急速それを撤回して、やけに説教じみた（？）本作に挑戦！

私は司馬遼太郎が最後に残した『二十一世紀に生きる君たちへ』が大好きだが、宮崎が自分の愛読書だった吉野源三郎の『君たちはどう生きるか』をタイトルにしてまで、なぜ本作のような“遺作”を作ったの？

自分の少年時代の体験から、彼がウクライナ戦争が起き、混迷化を深めている現在の世界や今ドキの若者たちにモノ申したい気持ちはわからなくもないが、本作のメッセージは一体ナニ？

私にはそれがイマイチ・・・？ “事前宣伝ゼロ”という営業戦略が功を奏し、本作は大ヒットしているようだが、私にはそんなやり方（戦略）もイマイチ・・・。

— \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \*

### ■□■ 『風立ちぬ』から10年！引退を撤回して本作を！ □■

宮崎駿は日本のアニメ界を代表する巨匠であり、かつての黒澤明監督のような存在だ。黒澤明は最後まで映画を作り続けたが、宮崎駿は『風立ちぬ』（13年）（『シネマ 31』140頁）を最後に映画界を引退することを発表した。同作は、「戦闘機は大好きだが、戦争は大嫌い！」。そんな根本「矛盾」を持つ宮崎駿の自叙伝的な映画になっていた。同作に私は少し不満だったが、それなりに、宮崎駿ワールドや宮崎自身が感じている、どうしようもない矛盾を感じ取ることができた。

そんな宮崎駿が、引退宣言を撤回して挑んだのが本作だが、長年の相棒であるプロデューサーの鈴木敏夫が「宣伝しない」方針を取ったため、本作については公開前の情報が全くないという異例の事態になった。ところが、そんなやり方が功を奏したのか、公開直前から本作の人気は上々で、私が鑑賞した時もほぼ満席状態だった。本作のタイトル『君た

ちはどう生きるか』は、宮崎が少年時代に読んで感動を受けたという、吉野源三郎の著書から取っているが、本作は同作を映画化したものではなく、宮崎自身が監督の他、原作も脚本も書いた完全なオリジナルものだ。

それにしても、今ドキ『君たちはどう生きるか』とは、何とも大層かつ、お説教じみた感のあるタイトルだが……。山田洋次監督が吉永小百合を起用して、91歳にして作った90作目の『こんにちは、母さん』(23年)は、わかりやすい感動作だったが、日本のアニメ界の巨匠・宮崎駿が引退宣言を撤回してまで作った“遺作”とも言うべき本作の出来は如何に？

## ■□■ 眞人(まひと)のキャラをどう考える？ ■□■

本作冒頭は、米軍による東京大空襲の中で母親を失う、少年・眞人(まひと)の物語だが、日本の敗色が次第に濃くなっているあの時代、その程度の不幸は誰もが受け入れざるを得なかったものだ。それを契機として、東京で軍事工場を経営している父親は自分の故郷への疎開を決定したが、そこで待つのは眞人の新しい母親となる、お母さんの妹の夏子だったから、アレレ！別にそれがダメなわけではないが、なぜ父親はその事情を眞人に説明しないの？しかも、疎開先に到着した眞人を迎えに来てくれた夏子のお腹には、弟か妹になる新たな命が宿っていたから、なおさらだ。本作導入部では、そんな状況下、大きなお屋敷に入った眞人の新しい生活が描かれるが、宮崎駿の分身とも思えるような、少年・眞人のキャラは……？

そもそも、私は大勢の女中たちから「お坊ちゃま」と言われながら育てられるような奴が嫌いだ、学校では孤立し、「アオサギ」とのワケのわからない抗争を繰り返す中で、弓矢まで作り出す眞人少年も、どちらかというとなんな嫌なヤツ！？

## ■□■ “アオサギ”らと共にワケのわからない物語の展開に！ ■□■

世界少年少女童話全集として有名な『白雪姫』などの物語も、最初に聞いた時はワケのわからないものだったかもしれない。それと同じように、本作ではじめて見る宮崎駿のオリジナル原作・脚本による本作中盤のストーリーは、全くワケがわからない。

そこでの登場人物は、眞人とアオサギの他、妊娠状態にありながら行方不明になってしまった夏子、ばあやの1人であるキリコたちだが、その舞台は、その昔、大叔父が建てたという塔から始まり、“塔の大王”まで登場してくるので話はややこしい。さらに、眞人が疎開したのは田舎の町だが、アオサギとの旅では、海の中で生きている女性や、多くのペリカンたち、さらに“わらわら”と呼ぶ、白いふわふわした生き物、さらには多くのインコたちが次々と登場し、ワケのわからないストーリーが展開していくので、ハッキリ言って私にはうんざり！宮崎の脚本は一体どうなっているの？

## ■□■ 新聞紙評は？ネット上のネタバレ情報は？ ■□■

本作については、宮崎駿の話題作だけに新聞紙評も多く、ネット上でのネタバレ情報も多いが、その多くは、どう書いたらいいのか(どう褒めたらいいのか)戸惑っているよう

だ。その典型が、「正直なところ、小欄は、この作品をうまく説明する言葉を、いまだに探しあぐねている。」と書かれた某紙だ。他方、2023年8月4日付、朝日新聞「クロスレビュー」では、①映画監督の想田和弘氏の「曖昧複雑 物語の定石捨てた」、②哲学者の谷川嘉浩氏の「開かない箱 想像する快樂」、③アニメ文化ジャーナリストの渡辺由美子氏の「塔の世界 ジブリを映した？」があり、三者三様の見解が明確に述べられているので参考にされたい。また、2023年7月24日付日経新聞に掲載された、映画評論家・中条省平氏の「地下で戦った「自分の戦争」」はあまりに褒めすぎ・・・？

## ■□■ “深読み合戦” の愚はどこまで広がるの？ ■□■

私はわざわざ宮崎が本作のタイトルにした、吉野源三郎の『君たちはどう生きるか』を読んでいないから、同書でどんなメッセージが語られているのか全く知らない。他方、日本の国民作家と呼ばれている司馬遼太郎は最後に『二十一世紀に生きる君たちへ』を残したが、そこでのメッセージは明白だ。本作は、疎開先のお屋敷に入った真人少年が、母親が残したという吉野源三郎の『君たちはどう生きるか』の本を手にするところで、同書のメッセージを伝えようとしているが、残念ながら、宮崎が本作のアニメで描く世界観からは、吉野源三郎の『君たちはどう生きるか』におけるメッセージを受け止めることはできない。真人は何とか無事に、あのワケのわからない世界を抜け出して、現実の世界に戻ることができたが、真人はあのワケのわからない旅によって何を学び、どう成長したの？残念ながら、私はそれを理解することができないわけだ。

他方、事前の情報ゼロの本作をめぐっては、前述のとおり多くの新聞紙評やネット上でネタバレ情報がある。とりわけ、個人の責任によるネタバレ情報は“言いたい放題”、“書きたい放題”だから、ある意味で面白い。例えば、映画感想レビュー&考察サイト Cinemarche に掲載されている星野しげみ氏の「【ネタバレ】君たちはどう生きるか 結末あらずじ感想と評価解説。宮崎駿監督がタイトルからも問いかける“生きる意義”」では、①「自由な発言を許されない軍事政権下に生まれ育った少年が、別世界に行った父親の好きな女性・夏子連れ戻しに行く物語です。」、②「作中、幼い真人へのメッセージとして、真人の母が吉野源三郎の小説『君たちはどう生きるか』を紹介しています。ここに込められた母の愛を真人は感じ取って自分のやるべきことを再確認します。」、③「不思議だらけの世界で出会う人たちと共に目的にむかう真人少年。少年の心の成長とともに観客も自分の生き方を問われることでしょう。」と書かれているが、さて・・・？さらに、④「主人公の真人は「マヒト」と読み、真理を悟って人格を形成するという意味を持っています。アオサギ男とは正反対で、嘘、偽りに対しての反発心は最初から持ち合わせていたと言えるでしょう。」とも書かれているが、これもさて・・・？

2023（令和5）年8月15日記